

第5回プルトニウム混合燃料に関する懇談会議事録要旨

1. 開催日時：平成18年2月23日(木) 10:00～16:00

2. 開催場所：ホテル六道湖

3. 議事

(1) 県民からの意見聴取

意見発表者：賛成・容認の立場の方5名、反対・慎重の立場の方5名。計10名

意見発表時間：10分/1人

意見発表者の要旨

賛成・容認の立場

- ・電気は生活に欠かせない。資源のない日本では原子力に頼らざるを得ない。安全運転と情報公開、発電所との信頼関係が継続するならば容認したい。
- ・通常燃料でもプルトニウムが作られ島根原発では安全に発電が行われてきており、海外の実績も合わせて考えれば、安全は確保される。
- ・プルサーマルは確立された技術の利用である。ドイツやフランスでは既に30から40年も前からMOX燃料を安全に使用していることを現地で聞いた。技術を積極的に利用していくことが必要。
- ・ウランやプルトニウムの有効活用は、次世代にエネルギー資源を残す選択だと思う。島根原子力発電所はこれまで大きな事故もなく運転されてきた。国の厳格な審査が行われた上で実施される。安全確保には信頼を置く。
- ・中国電力の運転実績は「安全」という観点から評価できる。エネルギー資源の確保、CO₂の低減といった観点からも意義がある。

反対・慎重の立場

- ・プルサーマルは危険性が増す。島根県は使用済みMOX燃料が溜まり核のゴミ置き場になる。
- ・格納容器の破損しない保障はない。使用済燃料が際限なく蓄積される。良い環境を残すことが義務であり責任である。
- ・プルサーマル用には作られていない原発で、世界で実績の無い高含有率でいきなりの商業利用で使用するのは危険。
- ・プルサーマルが実施されれば、事故の確率も高くなり、原子力防災訓練が不十分な状況では危険が増す。子どもを持つ親として、危険が増すことは避けてほしい。
- ・プルトニウムそのものが危険である。プルサーマルはウラン資源の節約にはならず、リサイクルに値しない。

(2) 論点整理の議論

- ・今後、「要検討項目議論のためのたたき台」(資料No.3)に従って議論することが確認された。

(3) 次回以降の懇談会について

第6回懇談会について、次のように決定された。

日時：平成18年3月24日(金) 9:30～16:00

場所：調整中

議事：これまでに抽出された論点に対する中国電力からの説明
論点を整理した項目についての議論

関係施設の視察について、次のように決定された。

日程：平成18年3月27日～3月29日

視察先：日本原燃(株)原子燃料サイクル施設(青森県六ヶ所村)

(独)日本原子力研究開発機構 東海研究開発センター(茨城県東海村)